



~13
3864



13
卷

雪磨作

國貞畫



彼書三國

好男兒此冊

三家美女子

一樣春風吹

樹枝萬花同

實者真理

庚寅春發行

上帙

上卷

喜鶴堂印行

五佐節の傾城之國志あり義大夫節の本朝之國志あり書肆喜鶴堂
 予の請て頗彼書の似肖長物語を編と云瞽家が豆敷火のやせま
 あらぬ無と被命せ山手育野支賞ホウ本文の片言許根のらま
 口は進本ら作りも去るもの何支もを赦されと辞され主人筋張て不
 退が秋酒屋の三輪が文句も旧故ゆる腹小案の毎とそも責ての書名と掲出
 志を去るは新著の上旨と興目録の報奉や其白園を塞んと切られて止難く
 陳文漢の陳壽を撰し那之國志と書とて羅貫を演義の混雜つ吾邦
 醍醐の朝の摸擬処喜杯のこころは這的の多ひを多しと則披露及人
 去る歳の子春うふ今茲で丁度福徳の三年めで度幾市て諸君高評を
 給ひる書肆の歡喜甚く自今巳后年々の編めと云は則序文は後と云

文政十三庚寅春正月刊行

墨川亭雪磨識



関羽

玄妙の
関路

玄妙の
用



玄德

賊婦
芒角

桑邑の
玄妙







此の神を祀りておろしうりてあつたはるの山ありてその
 ころの神を祀りておろしうりてあつたはるの山ありてその
 ころの神を祀りておろしうりてあつたはるの山ありてその

光仙ありてわづらひのこころ
 まじりてあつたはるの山ありてその
 ころの神を祀りておろしうりてあつたはるの山ありてその
 ころの神を祀りておろしうりてあつたはるの山ありてその



此の神を祀りておろしうりてあつたはるの山ありてその
 ころの神を祀りておろしうりてあつたはるの山ありてその
 ころの神を祀りておろしうりてあつたはるの山ありてその
 ころの神を祀りておろしうりてあつたはるの山ありてその

仙傳三十五志叙

女中二名を斬り



ついでに... 女中二名を斬り... 女中二名を斬り... 女中二名を斬り...

合戦... 女中二名を斬り... 女中二名を斬り... 女中二名を斬り...



ついでに... 女中二名を斬り... 女中二名を斬り... 女中二名を斬り...

合戦... 女中二名を斬り... 女中二名を斬り... 女中二名を斬り...

文政三十三年寅春新彫目録

水滸傳其家傑大雙六
歌川國芳画圖

東海道五十二次道中大雙六
大奉書三枚巻 極彩色入 溪齋英泉画圖

風流繪半切御進物御箱入品々

流懷中將棊一枚榻地本團問屋

井喜鶴堂上梓
江戸芝神明前三嶋町角

美艷仙女香粧り美金香
坂本氏製



水滸傳其家傑大雙六

十

庚寅新刊



玄德

傾城三國志初編

國自畫

雪磨作

上帙
卷之下





三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十

十四

三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十



三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十

十四



川藤のついで
おのついで
いふ

おのついで
いふ
おのついで
いふ

おのついで
いふ
おのついで
いふ



おのついで
いふ
おのついで
いふ

おのついで
いふ
おのついで
いふ

おのついで
いふ
おのついで
いふ

錦繪團扇問屋井

鶴堂

佐野屋喜兵衛版

傾城三國志

二編墨川亭雪麿作
八冊五渡亭國貞画

西國奇談 月之夜神樂

二編市川三升作
六冊溪齋英泉画

傾城三國志

初編墨川亭雪麿作
八冊五渡亭國貞画



五渡亭國貞画

墨川亭雪麿作

浄書 金川

Vertical text columns on the left side of the illustration, likely providing commentary or a story related to the scene.

Vertical text columns on the right side of the illustration, including the name '美奈香' (Minaka) and other details.

林條春寅庚寅年十三期文

論餘覽

傾城三國志初編

卷上

庚寅新刊

關羽



雪磨作
國貞画

喜鶴堂梓



傾城三國志

每編
八卷

庚寅
新鑄

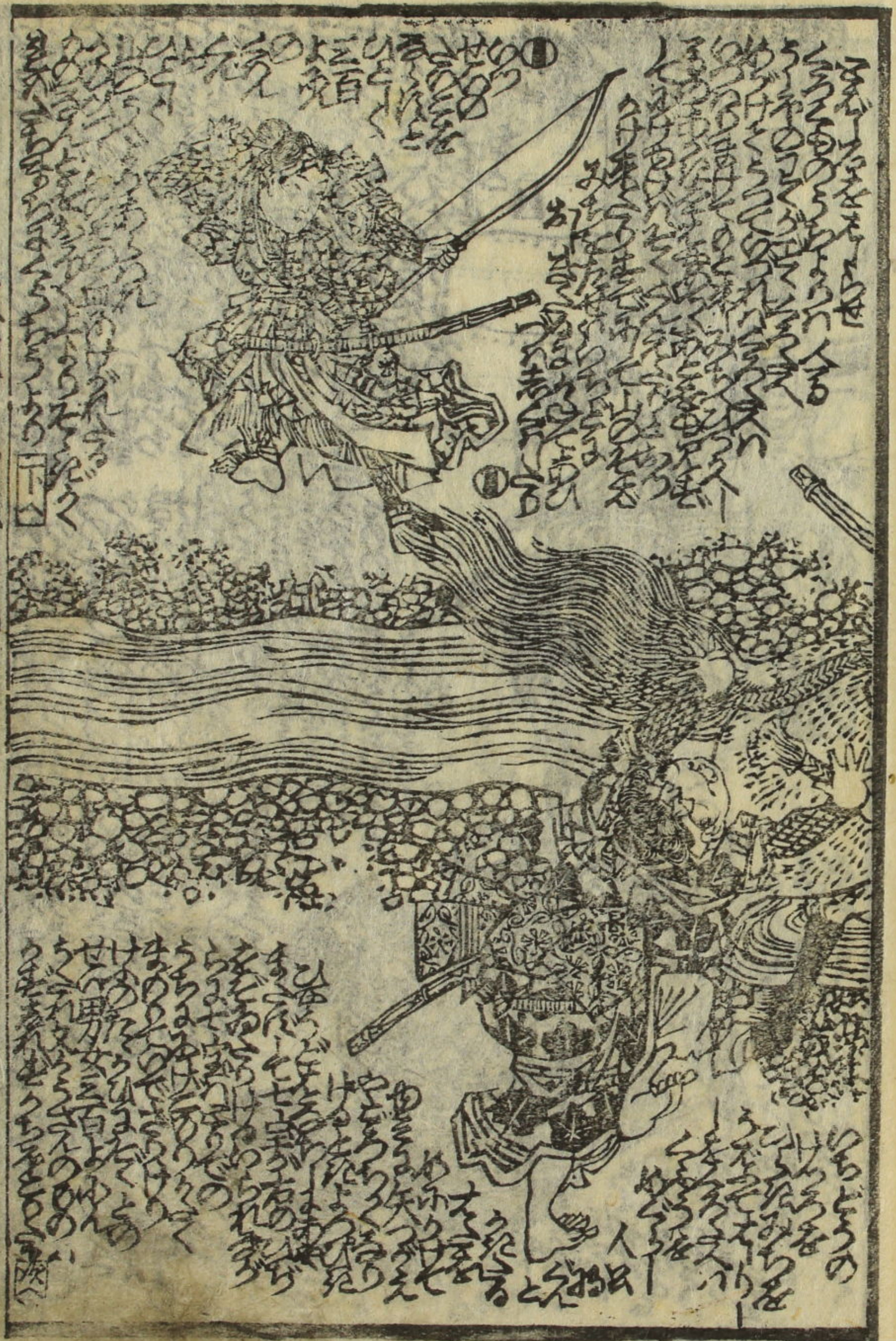


下帙
上卷

喜雀
堂行

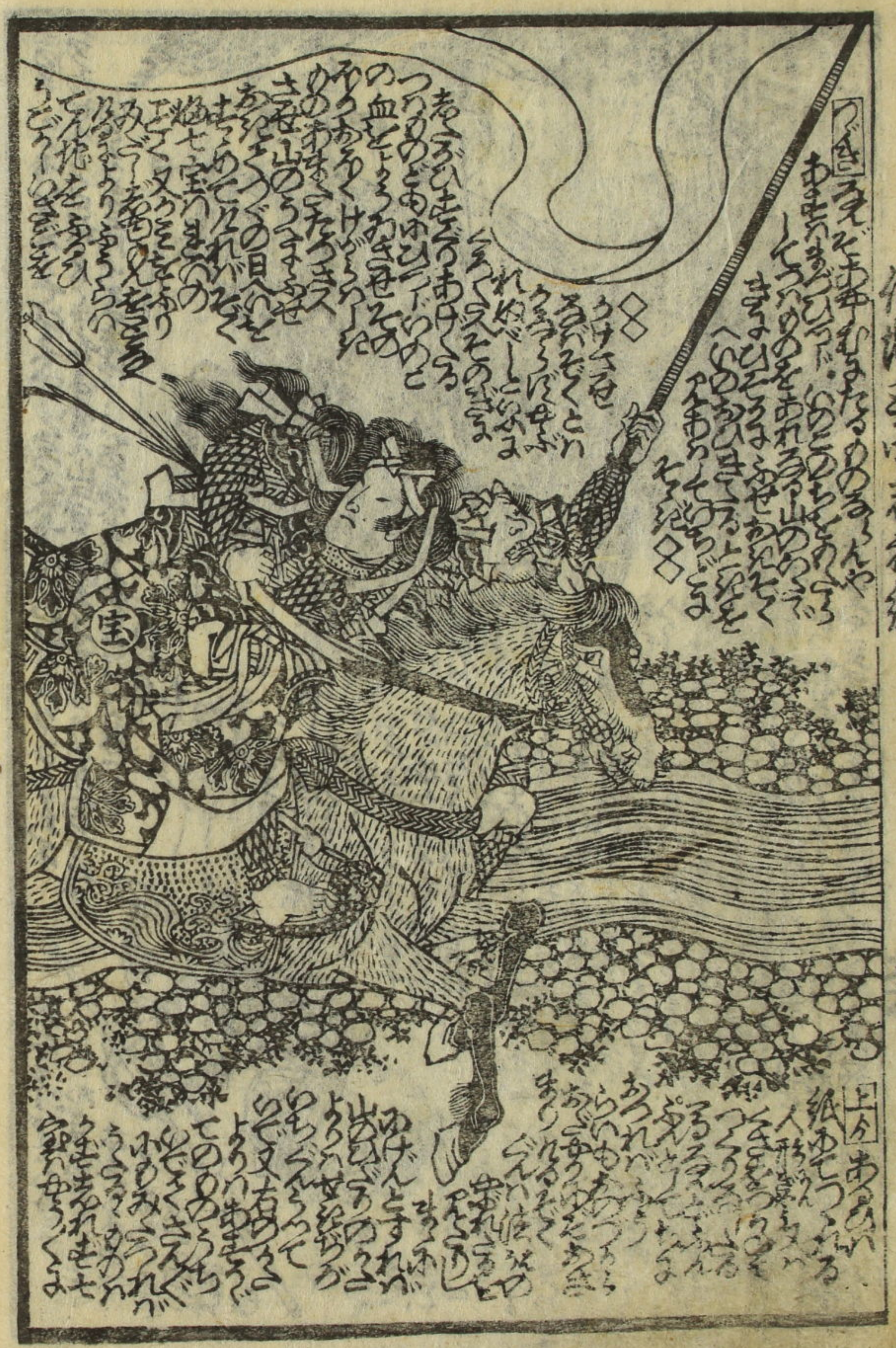
(五)

四の巻... 又大... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十... 三十一... 三十二... 三十三... 三十四... 三十五... 三十六... 三十七... 三十八... 三十九... 四十... 四十一... 四十二... 四十三... 四十四... 四十五... 四十六... 四十七... 四十八... 四十九... 五十... 五十一... 五十二... 五十三... 五十四... 五十五... 五十六... 五十七... 五十八... 五十九... 六十... 六十一... 六十二... 六十三... 六十四... 六十五... 六十六... 六十七... 六十八... 六十九... 七十... 七十一... 七十二... 七十三... 七十四... 七十五... 七十六... 七十七... 七十八... 七十九... 八十... 八十一... 八十二... 八十三... 八十四... 八十五... 八十六... 八十七... 八十八... 八十九... 九十... 九十一... 九十二... 九十三... 九十四... 九十五... 九十六... 九十七... 九十八... 九十九... 一百



尺取三太郎力加

七二



尺取三太郎力加

七三

文政三十三年春新彫目録

水滸傳真家傑大雙六

奉書三枚 極彩色入 歌川國芳画圖

東海道 五十三次 道中大雙六

大奉書三枚 極彩色入 溪齋英泉画圖

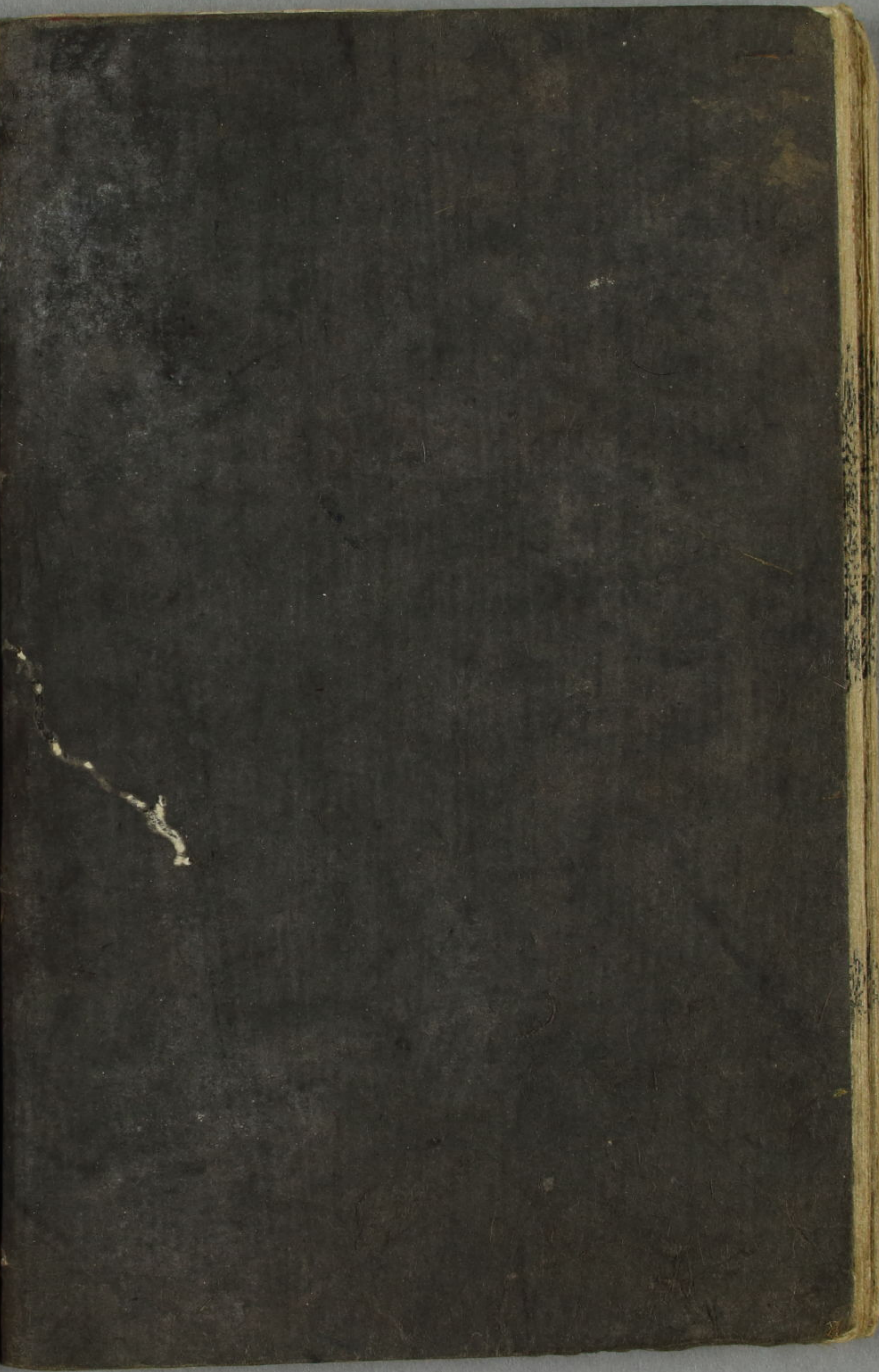
風流繪半切 御進物御箱入品々

流懷中將基一枚 地本團問屋

美艷仙女香 坂本氏製

喜鶴堂上様







雪磨作
國貞画

下帙
下卷

二

國

貞

寅春

佐野

喜版



江戸の街並み

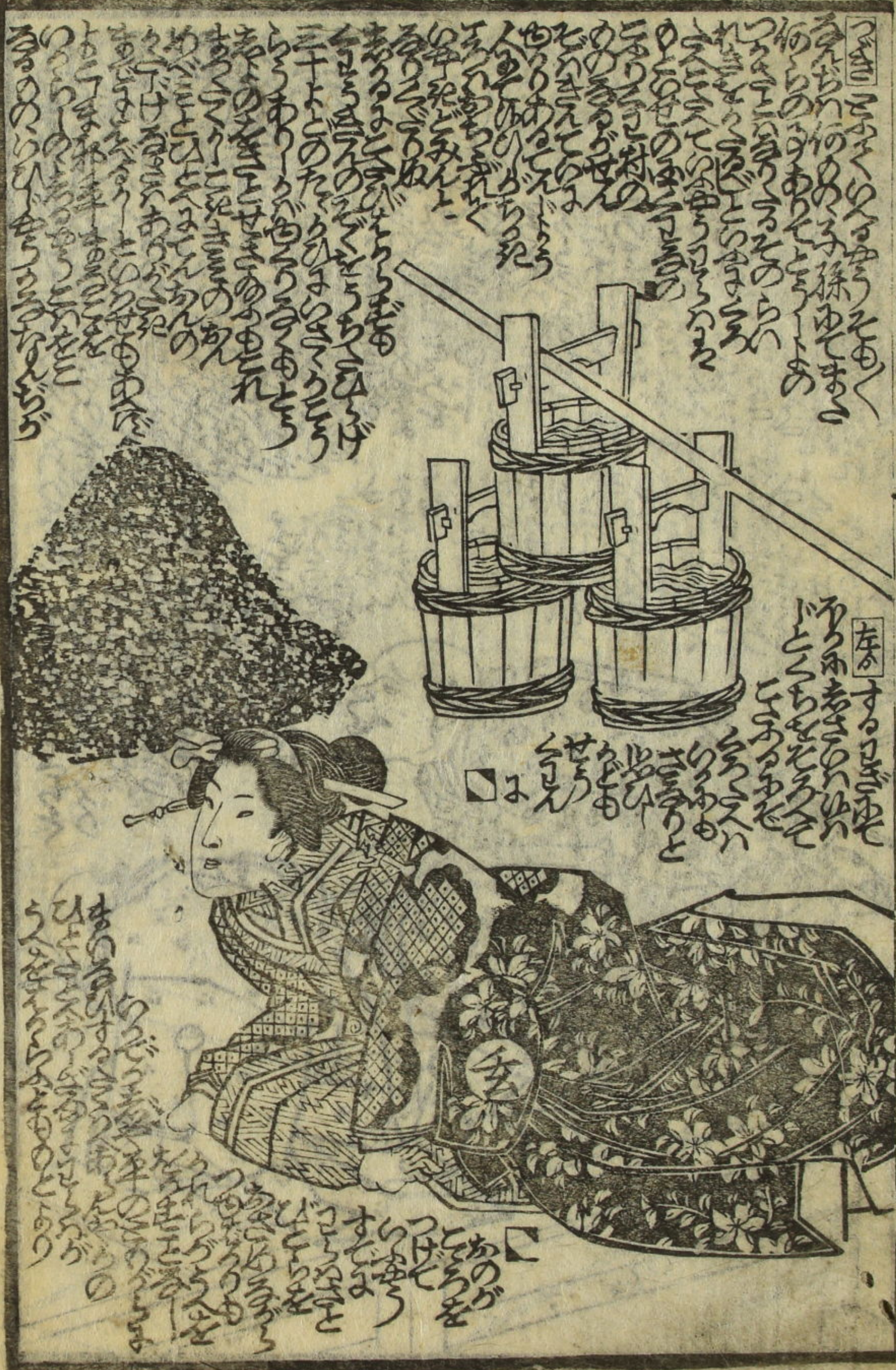
廿二



江戸の街並み
 右の女は、
 左の女は、
 ...

左の女は、
 ...

右の女は、
 ...



三河の地味はよく知られ
 るが、その味は、
 三河の地味はよく知られ
 るが、その味は、
 三河の地味はよく知られ
 るが、その味は、

左の口は、
 右の口は、
 左の口は、
 右の口は、

この口は、
 その口は、
 この口は、
 その口は、



三河の地味はよく知られ
 るが、その味は、
 三河の地味はよく知られ
 るが、その味は、

左の口は、
 右の口は、
 左の口は、
 右の口は、

この口は、
 その口は、
 この口は、
 その口は、

三河の地味はよく知られ
 るが、その味は、



右の
下へ

上へ

右の
下へ

右の
下へ

右の
下へ



右の
下へ

上へ

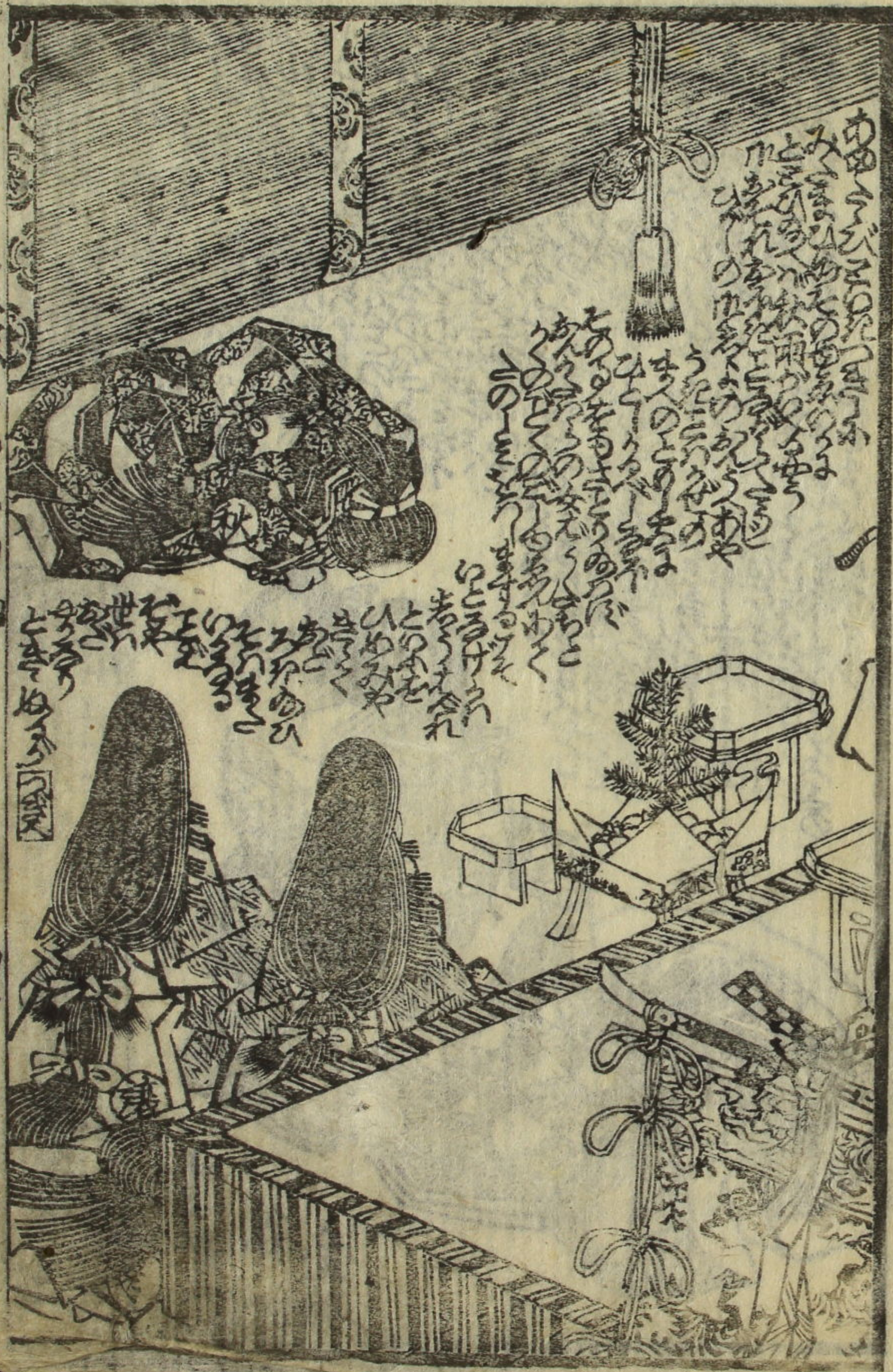
右の
下へ

右の
下へ

右の
下へ

右の
下へ





五渡亭國貞画回墨川亭雪麿作

ついでに... 墨川亭雪麿... 五渡亭國貞... 清書



清書 谷金川

傾城三國志

初編墨川亭雪麿作 八冊五渡亭國貞画

西國月之夜神樂

二編市川三升作 六冊溪齋英泉画

傾城三國志

二編墨川亭雪麿作 八冊五渡亭國貞画

錦繪團扇問屋井喜鶴堂 佐野屋喜兵衛版

江戸芝神明前云嶋町角



大南本